

年	月日	事 象
1998年 (平成10年)		山口大学の福田吉治教授が、ロドデノールの原料物質「ラズベリーケトン」の製造作業をしていた男性従業員3人に、1992年ころ白斑症状があり、うち2人について2年たっても完全には回復しなかったことを論文で報告した。(産経ニュース2013.9.12)
2006年 (平成18年)	1月31日	カネボウ、花王の完全子会社となる。
	7月14日	ロドデノール含有の「カネボウ ホワイトニング エッセンスS」の製造販売について承認申請した。
2007年 (平成19年)		ロドデノールの原料物質「ラズベリーケトン」による白斑被害が約20年前に確認されていることが、厚労省審議会で議題となっていた。(産経ニュース2013.9.12)
2008年 (平成20年)	1月25日	厚生労働省において、ロドデノール配合の「カネボウ ホワイトニング エッセンスS」が医薬部外品として承認される。
	9月	「アクアリーフ ホワイトニングエッセンス」発売。
2008年(平成20年) ～2010年(平成22年)		カネボウ、美白化粧品について市販後調査(1200人にアンケート調査) →カネボウによれば、白斑、白抜け等の症状を訴えた事例は確認されなかったとのこと。
2009年 (平成21年)	1月	カネボウ、消費者相談システム(エコーシステム)導入した。 →本来クレーム、相談内容を全件システムへ入力するものであったが、徹底を欠いていた。 (東洋経済オンライン2013.9.12)
2010年 (平成22年)	3月	「リサーチ ホワイトスキンメインテナイザー」、「トワニー エスティチュードホワイト ローション」発売。
	11月	「インプレス グランミュラ ローション」発売。
2011年 (平成23年)	3月	「インプレスICホワイトローション エマルション」発売。
	4月	「カネボウブランシール スペリア ホワイトディーブシリーズ」発売。
	10月3日頃	「顔に白抜けの状態が出た」として来店相談あり。
	10月	「トワニー センチュリー ザ・ローション」発売。
	12月	各支社の教育責任者の会議で、「白抜けした」という話が出た。
2012年 (平成24年)	2月	関西支社で3名に白抜けの症状が出たとして、本社マーケティング部門、本社研究所に問い合わせがあった。 →カネボウ、因果関係を認識できなかったと説明。
	3月	「susai ホワイトニングエッセンス」、「RMK スキンチューナー ブライトニング」発売。
	4月～6月	関西支社において「ブランシール」を使用したところ、フェイスラインが白く色抜けした事案(使用中止したら回復)。
	4月上旬	トワニーを使用したところ、首に色むらぎができたとして購入者が来店相談。43日後に回復しているとのことで重篤ではないと判断し、安全管理責任者に報告せず。
	6月	滋賀県大津市の購入者から「ブランシール」を使用したら白斑が生じたが、使用を中止したら回復したとの相談あり。
	7月25日	「ブランシール」を使用したら白斑が生じたとして、北九州の購入者が来店相談。
	7月27日	大阪市西成区の購入者から手や首に白抜けができていたとの相談。
	7月30日	販売会社ストア部担当者が、岩手支店で2名の購入者から、色抜けしたこと、医師から化粧品が原因ではないかと言われた事例があったとのことを報告。
	8月頃	販売会社東北支社福島支店から、「ブランシール」を使用したところ白抜けしたとの相談があったとの報告。
	9月4日	大阪府内の大学病院の医師から、患者の尋常性白斑につき、美白化粧品がトリガーになった疑いがあるとの電話連絡あり。
	9月28日	栃木県在住の購入者から、コンシューマーセンターに「赤くはれ、まだらに白くなった」「医師から化粧品がきっかけになった可能性があると言われた」との電話相談。
10月	中国地方の皮膚科医が白斑被害を指摘、パッチテストでロドデノールが反応した。カネボウはアレルギー性皮膚炎としか認識できなかったと説明している。(産経ニュース2013.8.7)	

	11月9日	中四国支社担当者から本社マーケティング部に対して白斑の発生について問い合わせ。
	11月22日	価値創成研究所担当者が皮膚科専門医と面談し、白斑についての一般的見解をきく。
	12月4日	アクアリーフ使用顧客からコンシューマーセンターに対して白斑が生じたこと、化粧品が原因ではないかと感じているとのメールが送信される。
	12月11日	福岡県内の大学病院からパッチテストの結果を受領。
2013年 (平成25年)	2月20日	福岡県内の大学病院の医師を訪問。
	2月	中国地方の皮膚科医が、化粧品の使用者で色素脱失や沈着の事例はないかカネボウに確認したところ、担当者は「そうした例は聞いていない」と回答した。(産経ニュース2013.8.7)
	3月	「RMK インテンシブ ブライトニングエッセンス」、「SUQQU ホワイトニング リペア エッセンス」発売
	5月13日	岡山県内の大学病院の皮膚科医から価値創成研究所研究員に対してメールで問い合わせ。
	5月22日	価値創成研究所担当者が、平成24年11月22日にも意見を求めた皮膚科医を訪問し、発生件数を示して白斑についての意見を聞く。
	5月27日	研究・技術部門の研究員らが岡山県内の大学病院の皮膚科医を訪問。
	5月29日	会長、社長に対してロドデノール含有商品の販売の中止、商品改良の必要性があり得ることを報告。
	5月31日	研究・技術部門統轄らが皮膚科医と面談し、白斑についての5月22日の見解を確認。
	6月3日	研究・技術部門統轄らから会長、社長に対し、岡山県内の大学病院の皮膚科医から説明された内容を報告。
	6月28日	経営会議で自主回収を決定。
	7月4日	カネボウ、美白化粧品の自主回収公表。
	8月12日	カネボウ、問題対応のために組織体制を変更。
	9月7日	日本皮膚科学学会が症例について中間報告。
	9月10日	厚労省、カネボウ以外の9社の15製品で、白斑被害の相談が16件あったことを公表。(産経ニュース2013.9.10)
	9月11日	カネボウ、第三者調査報告書を発表。
	9月18日	東京在住の女性が、約4800万円の損害賠償請求訴訟を提起。
	9月～10月	全国各地で被害者弁護団立ち上げ(仙台、東京、大阪、滋賀、兵庫、静岡など)。
	10月8日	花王、カネボウの研究・生産部門の吸収を発表。2015年末までに販売部門も吸収予定。
	10月11日	厚労省、カネボウ問題の原因分析のため研究班を設置することを発表。年度内に省内の審議会に結果を報告する。
	10月13日	カネボウ、白斑被害が1万5192人となることを発表。 →最新の状況は随時カネボウのホームページで更新中。